

## 講師用進行要領 目次


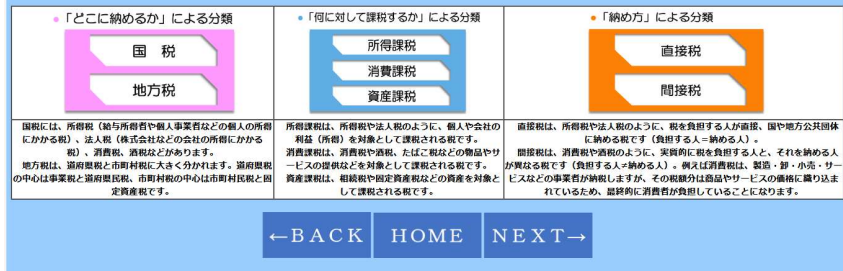
1 導入	P 2	(3分)
2 税金の種類	P 3	(5分)
3 税金の流れと納め方	P 4	(5分)
4 税金の使われ方	P 5～6	(7分)
5 公平な税の集め方	P 7～12	(15分)
6 税金の使い道の決め方	P13	(2分)
7 国の財政	P14～16	(10分)
8 まとめ	P15	(3分)

---

















(計 50 分)

※「5 公平な税の集め方」のグループワークがメインとなるため、時間が足りない場合は他の項目の時間配分を調整してください。


	副教材画面	シナリオ
1	<p style="text-align: center;"><b>わたしたちの生活と税金</b></p>  <p style="text-align: center;">熊本県租税教育推進協議会</p>	<p>講師：</p> <p>みなさん、こんにちは！</p> <p>今日は「税金」について、一緒に学んでいきましょう。</p> <p>「税金」と聞いて、どんなイメージがありますか？</p> <p>難しそう？自分たちには関係なさそう？</p> <p>でも、実はみなさんの身の回りにも、税金が関わっているものがたくさんあるんですよ。</p> <p style="text-align: center;">（「1 生活と税」 をクリック）</p>
2	<p style="text-align: center;"><b>1日の中で税金が使われている場面を見てみよう</b></p> <p style="text-align: center;">わたしたちと税金の関わり</p>  <p style="text-align: center;">HOME    NEXT→</p>	<p>講師：</p> <p>みなさんの1日の生活の中でも、税金が使われている場面がたくさんあります。</p> <p>例えば、通学のときに目にする道路や信号の整備には、税金が使われています。</p> <p>他にも、学校の建設や学校の備品、教科書の購入にも税金が使われています。</p> <p>みなさんが意識しないところで、実は税金が社会を支えているんですね。</p> <p>今日は、意外と身近な税金について「どんな税金があるのか」「どうやって集められ、使われているのか」など、より深く学んでいきましょう。</p> <p style="text-align: center;">（「NEXT」 をクリック）</p>

<b>2</b>	<b>税金の種類 (所要時間: 5分)</b>	
<b>3</b>	<div style="text-align: center;"> <p><b>税金の種類</b></p> <p>税金にはどんな種類があって、どのように納められているか見てみよう</p>  <p style="text-align: center;">税金の3通りの分類方法を見てみよう</p> <p style="text-align: center;">←BACK HOME NEXT→</p> </div>	<p>講師：</p> <p>はじめに、税金の種類を見ていきましょう。</p> <p>主な税金を表にまとめてみました。「消費税」などは、みなさんも聞いたことがあるかもしれません。</p> <p>ここに載っている税金は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 どこに納めるか</li> <li>2 何に対して課税するか</li> <li>3 納め方 (誰が納めるか)</li> </ol> <p>という視点で、3通りに分類することができます。</p> <p style="text-align: center;">(「税金の3通りの分類方法を見てみよう」 をクリック)</p>
<b>4</b>	<div style="text-align: center;"> <p><b>税金の3つの分類</b></p> <p>税には、視点の違いから「どこに納めるか」「何に対して課税するか」「納め方」の3通りの分類方法があります。</p>  <p style="text-align: center;">←BACK HOME NEXT→</p> </div>	<p>講師：</p> <p>「どこに納めるか」の分類では、大きく「国税」「地方税」に分けられます。「地方税」をさらに細かく分けると、「都道府県税」と「市町村税」に分けられます。</p> <p>「何に対して課税するか」の分類では、所得税や法人税のように、個人や会社の利益、つまり所得に課税する「所得課税」などがあります。</p> <p>「納め方」の分類は、「納める人」によって分類します。所得税や法人税のように、税を負担する人が直接国や地方に納める「直接税」、消費税や酒税のように、納税は事業者が行うものの、消費やサービスの購入者が税金を負担する「間接税」があります。</p> <p style="text-align: center;">(「NEXT」 をクリック)</p>

3	税金の流れと納め方 (所要時間：5分)	
5	<p style="text-align: center;"><b>消費税の納め方を見てみよう</b></p> <p><b>消費税についての説明</b></p> <p><b>消費者</b> → <b>1000</b> (品物の金額1,000円と一緒に消費税100円を支払う。)</p> <p><b>お店</b> → <b>1000</b> (お店の売上) / <b>100</b> (消費税の額を計算して納める。)</p> <p><b>税務署</b> → <b>100</b> (納められた消費税を日本銀行に預ける。)</p> <p><b>日本銀行</b> → <b>78円</b> (国(国税)) / <b>22円</b> (地方(地方税))</p> <p>国(国税) 7.8% / 地方(地方税) 2.2%</p> <p>※消費税は国税(消費税)と地方税(地方消費税)に分かれていて国税が7.8%、地方税が2.2%です。</p> <p style="text-align: center;">← BACK HOME NEXT →</p>	<p>講師：</p> <p>それでは、みなさんにとって一番身近な「消費税」について、どんな流れで納められているのか見てみましょう。</p> <p>例えば、お客さんがお店で商品を買ったとき、レシートには消費税の金額も表示されていますよね。</p> <p>みなさんも買い物をしたとき、「消費税込みの金額を払っているけど、納税の手続きはしたことがないな…」と思ったことはありませんか？</p> <p>実は、お店の人がそれをまとめて、国や市に納めているんです。</p> <p>先ほどの「納め方」の分類でいうと、消費税は「間接税」になります。</p> <p style="text-align: center;">(「NEXT」 をクリック)</p>
6	<p style="text-align: center;"><b>税金の流れと納め方</b></p> <p><b>商品を買った場合</b> → <b>消費税</b> → <b>税務署(国)</b></p> <p><b>自分で商売をしている場合</b> → <b>所得税</b> → <b>税務署(国)</b></p> <p><b>会社などに勤めている場合</b> → <b>住民税</b> → <b>都道府県市区町村(地方公共団体)</b></p> <p style="text-align: center;">← BACK HOME NEXT →</p>	<p>講師：</p> <p>消費税以外の税金も見てみましょう。</p> <p>イラストの中央「自分で商売をしている場合」を見てください。</p> <p>自分で商売をしている人(個人事業主)は、年に1度税金を自分で計算して、税務署に申告します。</p> <p>これが「確定申告」です。みなさんもどこかで、聞いたことがあるかもしれません。</p> <p>先ほど分類したように、税金によって、課税対象や納め方がちがってくるんですね。</p> <p style="text-align: center;">(「NEXT」 をクリック)</p>

4 税金の使い方（所要時間：7分）											
<p>7</p> <div data-bbox="244 261 929 783"> <h3>一人当たりの教育費</h3> <p>学校で使う備品や施設のほか、教科書の無償配布などにも税金が使われています。 みなさんのために年間どのくらい使われているか、確認してみましょう。</p> <p>(全国平均 令和4年度)</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>高校生(全日制)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94万円</td> <td>108万円</td> <td>112万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所：文部科学省「令和5年度地方教育費調査（令和4会計年度）」</p> <p>←BACK HOME NEXT→</p> </div>	小学生	中学生	高校生(全日制)	94万円	108万円	112万円	<p>講師： 最初に少しお話しましたが、みなさんが毎日通っている学校の教室、机、黒板、教科書、先生の給料… これらには、すべて税金が使われています。 (画面に表示されたイラストと金額を見せる) 講師： 実は、生徒一人当たりで換算すると、年間で約100万円の税金が使われているということなんです！ このように、みなさんが安心して学べるように、たくさんの人が納めた税金が使われているんですね。 (「NEXT」 をクリック)</p>				
小学生	中学生	高校生(全日制)									
94万円	108万円	112万円									
<p>8</p> <div data-bbox="244 793 929 1313"> <h3>税金はどんなところで使われているだろう？</h3> <p>わたしたちの身の回りには、国や地方公共団体による「公共サービス」や「公共施設」があります。</p> <div data-bbox="324 895 862 1177"> <h4>「税金」により賄われています。</h4> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">公共サービス 警察、消防、ごみ収集、福祉 など</th> <th colspan="2">公共施設 道路、学校、公園 など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>                       警察費・消防費                      (令和3年度)                      約5兆2,963億円<sup>※1)</sup>                      国民1人当たり                      約42,200円                 </td> <td>                       ごみ処理費用                      (令和3年度)<sup>※2)</sup>                      約2兆4,384億円<sup>※2)</sup>                      国民1人当たり                      約19,400円                 </td> <td>                       国民医療費の                      公費負担額                      (令和2年度)<sup>※3)</sup>                      約16兆4,991億円<sup>※3)</sup>                      国民1人当たり                      約130,800円                 </td> <td>                       道路整備事業費                      (令和5年度)<sup>※4)</sup>                      約1兆6,711億円<sup>※4)</sup> </td> <td>                       校舎・体育館                      などの建設費用                      (令和5年度)<sup>※5)</sup>                      約743億円<sup>※5)</sup> </td> </tr> </tbody> </table> <p>※1-2 出所：総務省「令和3年度地方財政報告」                      ※3 出所：厚生労働省「令和2(2020)年度国民医療費調査報告書」                      ※4-5 出所：財務省「令和5年度予算案の概要と主要な財源確保計画の概況」</p> <p>わたしたちの県で税金が使われている場所や施設等を見よう</p> <p>←BACK HOME NEXT→</p> </div> </div>	公共サービス 警察、消防、ごみ収集、福祉 など			公共施設 道路、学校、公園 など		 警察費・消防費 (令和3年度) 約5兆2,963億円 <sup>※1)</sup> 国民1人当たり 約42,200円	 ごみ処理費用 (令和3年度) <sup>※2)</sup> 約2兆4,384億円 <sup>※2)</sup> 国民1人当たり 約19,400円	 国民医療費の 公費負担額 (令和2年度) <sup>※3)</sup> 約16兆4,991億円 <sup>※3)</sup> 国民1人当たり 約130,800円	 道路整備事業費 (令和5年度) <sup>※4)</sup> 約1兆6,711億円 <sup>※4)</sup>	 校舎・体育館 などの建設費用 (令和5年度) <sup>※5)</sup> 約743億円 <sup>※5)</sup>	<p>講師： 学校以外にも、税金が使われている場所やサービスがたくさんあります。 警察、消防、ごみ収集…医療費の公費負担分も、税金が使われています。 わたしたちが普段、当たり前だと思っている生活は、実は税金の支えの上に成り立っているんですね。  (「わたしたちの県で税金が使われている場所や施設を見てみよう」 をクリック)</p>
公共サービス 警察、消防、ごみ収集、福祉 など			公共施設 道路、学校、公園 など								
 警察費・消防費 (令和3年度) 約5兆2,963億円 <sup>※1)</sup> 国民1人当たり 約42,200円	 ごみ処理費用 (令和3年度) <sup>※2)</sup> 約2兆4,384億円 <sup>※2)</sup> 国民1人当たり 約19,400円	 国民医療費の 公費負担額 (令和2年度) <sup>※3)</sup> 約16兆4,991億円 <sup>※3)</sup> 国民1人当たり 約130,800円	 道路整備事業費 (令和5年度) <sup>※4)</sup> 約1兆6,711億円 <sup>※4)</sup>	 校舎・体育館 などの建設費用 (令和5年度) <sup>※5)</sup> 約743億円 <sup>※5)</sup>							

<p>9-1</p>	<p>みんなの県で税金が使われているところを見てみよう</p>  <p>←BACK HOME NEXT→</p>	<p>講師： 例えば、〇〇市ではどのようなところに税金が使われているのでしょうか？ 「〇〇市」をクリックしてみましょう。</p> <p>（市町村名をクリックすると、9-2 のように公共施設等の写真および説明文が表示される。 学校に近い市町村名をクリックすると、生徒に親近感が湧く）</p>
<p>9-2</p>	<p>みんなの県で税金が使われているところを見てみよう</p>  <p>竜門ダム</p>  <p>竜門ダムは日本最大級の多目的ダムであり、熊本県北部唯一の水がめとしての役割のほか、台風や大雨の際は下流へ流す水の量を調節して洪水を防ぐ役割を果たしています。（写真提供：熊本県観光連盟）</p> <p>←BACK HOME NEXT→</p>	<p>講師： （市町村の施設を説明する。以下は「熊本県菊池市」の例） 菊池市にある「竜門ダム」の運営・管理などには税金が使われています。 日本最大級の多目的ダムで有名ですよ。みなさんの中にも、行ったことがある人がいるかもしれません。 （時間があれば、他の市町村の施設も説明する）</p> <p>講師： 税金は、〇〇県の中でも、いろいろな形で地域の生活を支えているんですね。 これから町を歩くときは、「ここにも税金が使われているかも？」と考えてみてください。</p> <p>（「NEXT」 をクリック）</p>

<p>5 公平な税の集め方（所要時間：15分）</p>	
<p>10</p>  <p>納税の義務とは</p> <p>納税の義務は憲法で定められています。</p> <p>日本国憲法 第30条 国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。</p> <p>納税の義務を果たしてもらうためには、国民の公平感(納得感)が必要です。</p> <p>公平感とは??</p> <p>「公平感」とは何か、グループワークで考えてみよう!</p> <p>←BACK HOME NEXT→</p>	<p>講師：</p> <p>ここまで税金が「生活を支える仕組み」であることを学んできました。では、私たちはなぜ税金を納めるのでしょうか？</p> <p>今回のテーマは「納税の義務」です。みなさんも社会科の授業で聞いたことがあるかもしれませんね。</p> <p>これは、日本国憲法の第30条で定められている「国民の三大義務」の一つです。</p> <p>つまり、「税金を納めること」は、単なるルールやルール違反の話ではなく、国民としての基本的な役割なのです。</p> <p>国民が納得して役割を果たすために、税金には公平性が求められます。</p> <p>次は、「公平感（納得感）」をテーマに、税金について考えてみましょう。</p> <p>（「NEXT」 をクリック）</p>

11-1

**町に橋を架けよう**



みなさんはメタバタウンの住人です。メタバタウンには家が4軒あり、町の真ん中を町が管理する川が流れています。メタバタウンの4軒全ての住人の希望により、橋を建設することになりました。橋の建設費用には400万円が必要です。どのように負担するのが「公平」か、考えてみましょう。

【パターン1】各家の家族構成・所得金額・使用回数が同じ場合			
家族	所得金額	使用回数	負担金額
A家	4人	500万円	月10回
B家	4人	500万円	月10回
C家	4人	500万円	月10回
D家	4人	500万円	月10回

●ヒント●  
4軒とも同じ条件だから、公平に負担すると…

クリックしてみよう

次は、各家の所得金額（もうけ）が異なる場合について考えてみよう！

←BACK   HOME   NEXT→

講師：

町内に4軒家がある、「メタバタウン」の住人になったつもりで考えてみましょう。

ここに住む家族4軒全員の希望で、この町に橋をかけたいので、そのための費用400万円を集めなければなりません。



4軒が納得するよう、公平に費用を集めるとしたら、いくらずつ負担してもらえばいいのでしょうか。

正解はありませんので、自由に考えてみてください。

考え方のヒントとしては、各家庭の所得金額、橋の使用回数などの条件に注目してもらおうといいでしょう。


考えがまとまったら、灰色のボタンをクリックしてください。

（「クリックしてみよう」をクリックすると、11-2のように負担金額が表示される。パターン1及び2は、「公平感」について考える導入として使用する）

<p>11-2</p>	<p style="text-align: center;"><b>町に橋を架けよう</b></p>  <p>みなさんはメタバタウンの住人です。メタバタタウンには家が4軒あり、町の真ん中を町が管理する川が流れています。メタバタタウンの4軒全ての住人の希望により、橋を建設することになりました。橋の建設費用には400万円が必要です。どのように負担するのが「公平」か、考えてみましょう。</p> <table border="1" data-bbox="425 454 728 550"> <thead> <tr> <th colspan="5">【パターン1】各家の家族構成・所得金額・使用回数が同じ場合</th> </tr> <tr> <th>家数</th> <th>家族</th> <th>所得金額</th> <th>使用回数</th> <th>負担金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A家</td> <td>4人</td> <td>500万円</td> <td>月10回</td> <td>100万円</td> </tr> <tr> <td>B家</td> <td>4人</td> <td>500万円</td> <td>月10回</td> <td>100万円</td> </tr> <tr> <td>C家</td> <td>4人</td> <td>500万円</td> <td>月10回</td> <td>100万円</td> </tr> <tr> <td>D家</td> <td>4人</td> <td>500万円</td> <td>月10回</td> <td>100万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>●ヒント● 4軒とも同じ条件だから、公平に負担すると…</p> <p style="text-align: center;">クリックしてみよう</p> <p style="text-align: center;">次は、各家の所得金額（もうけ）が異なる場合について考えてみよう！</p> <p style="text-align: center;">←BACK HOME NEXT→</p>	【パターン1】各家の家族構成・所得金額・使用回数が同じ場合					家数	家族	所得金額	使用回数	負担金額	A家	4人	500万円	月10回	100万円	B家	4人	500万円	月10回	100万円	C家	4人	500万円	月10回	100万円	D家	4人	500万円	月10回	100万円	<p>講師： パターン1の場合は、各家庭の家族構成や所得金額などの条件が全く一緒であることから、今回は「均等に4等分する考え方」を紹介します。 次は、条件の1つ「所得金額」が異なる場合はどう負担するか、考えてみましょう。</p> <p>（「次は、各家の所得金額（もうけ）が異なる場合について考えてみよう！」をクリックする）</p>
【パターン1】各家の家族構成・所得金額・使用回数が同じ場合																																
家数	家族	所得金額	使用回数	負担金額																												
A家	4人	500万円	月10回	100万円																												
B家	4人	500万円	月10回	100万円																												
C家	4人	500万円	月10回	100万円																												
D家	4人	500万円	月10回	100万円																												
<p>12-1</p>	<p style="text-align: center;"><b>町に橋を架けよう</b></p>  <table border="1" data-bbox="459 981 728 1077"> <thead> <tr> <th colspan="5">【パターン2】各家の所得金額（もうけ）が異なる場合</th> </tr> <tr> <th>家数</th> <th>家族</th> <th>所得金額</th> <th>使用回数</th> <th>負担金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A家</td> <td>4人</td> <td>1,000万円</td> <td>月10回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B家</td> <td>4人</td> <td>600万円</td> <td>月10回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C家</td> <td>4人</td> <td>300万円</td> <td>月10回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D家</td> <td>4人</td> <td>100万円</td> <td>月10回</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>●ヒント● 所得金額によって負担する金額を変えてみよう！</p> <p style="text-align: center;">クリックしてみよう</p> <p style="text-align: center;">次は、各家の所得金額（もうけ）と橋の使用回数が異なる場合を考えてみよう！</p> <p style="text-align: center;">←BACK HOME NEXT→</p>	【パターン2】各家の所得金額（もうけ）が異なる場合					家数	家族	所得金額	使用回数	負担金額	A家	4人	1,000万円	月10回		B家	4人	600万円	月10回		C家	4人	300万円	月10回		D家	4人	100万円	月10回		<p>講師： パターン2は、各家庭によって所得金額が違いますね。 このときは、どのように負担するのが公平でしょうか。 「所得金額」に注目するとのみが家庭によって異なる点です。 所得金額によって、負担する金額を変えてみましょう。 この問題も、正解はありませんので自由に考えてみてくださいね。 考えがまとまったら、灰色のボタンをクリックしてください。</p> <p>（「クリックしてみよう」をクリックすると、12-2のように負担金額が表示される）</p>
【パターン2】各家の所得金額（もうけ）が異なる場合																																
家数	家族	所得金額	使用回数	負担金額																												
A家	4人	1,000万円	月10回																													
B家	4人	600万円	月10回																													
C家	4人	300万円	月10回																													
D家	4人	100万円	月10回																													

12-2

### 町に橋を架けよう



【パターン2】各家の所得金額（もうけ）が異なる場合			
家族	所得金額	使用回数	負担金額
A家 4人	1,000万円	月10回	200万円
B家 4人	600万円	月10回	120万円
C家 4人	300万円	月10回	60万円
D家 4人	100万円	月10回	20万円

●ヒント●  
所得金額によって負担する金額を変えてみよう！

クリックしてみよう

次は、各家の所得金額（もうけ）と橋の使用回数が異なる場合を考えてみよう！

←BACK
HOME
NEXT→

講師：

パターン2では、所得の金額に応じて負担金額を決めるやり方を紹介します。

所得が一番高いA家は負担金額が高く、逆に所得が一番低いD家は所得金額が低くなっています。

ちょっと難しくなってきましたね。

次は、所得に加えて「橋の使用回数」も異なる場合について考えてみましょう。

（「次は、各家の所得金額（もうけ）と橋の使用回数が異なる場合について考えてみよう！」 をクリックする）

13

**町に橋を架けよう**



【パターン3】各家の所得金額（もうけ）と橋の使用回数異なる場合				
家数	所得金額	使用回数	負担金額	
A家	4人 1,000万円	月 0回		
B家	4人 600万円	月 10回		
C家	4人 300万円	月 10回		
D家	4人 100万円	月 20回		

[グループ名]

[負担金額を決めた理由]

グループの意見をまとめて、「負担金額」と「負担金額を決めた理由」を入力しよう！

●ヒント●  
いくつかの負担方法を組み合わせる方法も考えてみよう！

←BACK   HOME   NEXT→

講師：

パターン3は「所得金額」と「橋の使用回数」がそれぞれ違います。どのように負担すれば公平になるか、グループワークで考えてみましょう。パターン1や2をヒントに考えてみてください。繰り返しになりますが、この問題も正解はありません。自由に考えて、グループで話し合ってみてください。


○時○分になったら、各グループの代表者に発表してもらいますので、それまでに「グループ名」と、「負担金額を決めた理由」まで入力して、スクリーンショットを●●に保存してください。

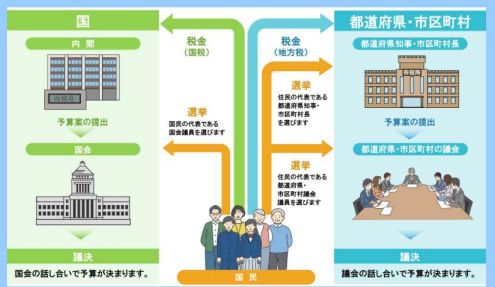
（スクリーンショットは、集約できるサーバーなどに保存させる。各グループが提出した画像を映し出ししながら、負担金額を決めた理由を発表させる。どの要素に注目したかを発表させるとよい。）

講師：

代表者のみなさん、ありがとうございました。グループによって、いろいろな負担方法がありました。どれが正解、というものではなく、状況や視点によって「公平さ」はいろいろな形になるということが分かりましたね。

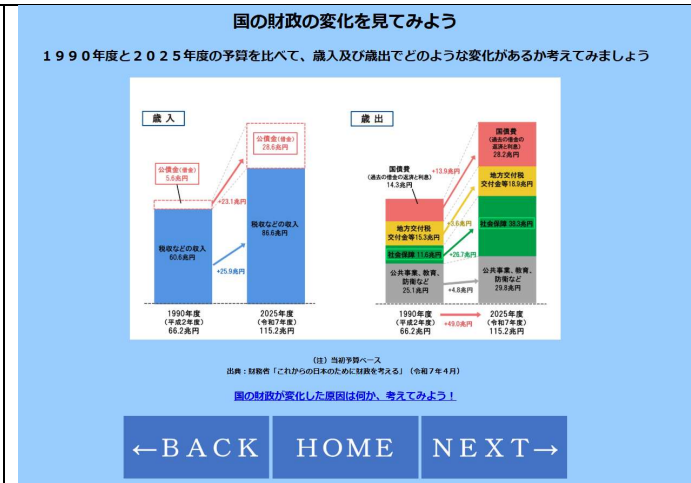
（「NEXT」 をクリック）

14	<h3>税の公平性</h3> <p>税金には、みんながより公平だと思える仕組みが必要です</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>公平の考え方</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応能負担</td> <td>各自の能力に応じて負担すること</td> </tr> <tr> <td>応益負担</td> <td>自分が受けた利益に応じたものを負担すること</td> </tr> <tr> <td>水平的公平</td> <td>「負担能力が同じ人には、同じ負担を求めるのが公平」という考え方</td> </tr> <tr> <td>垂直的公平</td> <td>「負担能力が高い人には、より大きな負担を求めるのが公平」という考え方</td> </tr> <tr> <td>世代間の公平</td> <td>「現役世代と将来世代の受益と負担のバランスを保つ」という考え方</td> </tr> </tbody> </table> <p>← BACK   HOME   NEXT →</p>	公平の考え方	内容	応能負担	各自の能力に応じて負担すること	応益負担	自分が受けた利益に応じたものを負担すること	水平的公平	「負担能力が同じ人には、同じ負担を求めるのが公平」という考え方	垂直的公平	「負担能力が高い人には、より大きな負担を求めるのが公平」という考え方	世代間の公平	「現役世代と将来世代の受益と負担のバランスを保つ」という考え方	<p>講師：</p> <p>グループワークで考えてもらったように、各家庭に公平に負担してもらう場合、いくつかの方法があります。</p> <p>例えば、「応能負担」という、所得の金額に応じて負担金額を決める方法であれば、所得の多い A 家が多くの金額を負担することになりますが、「使用回数」という視点から考えると、A 家は橋の使用回数は 0 回です。</p> <p>負担の方法が「応能負担」だけだと、A 家は不満があるかもしれません。</p> <p>1 つの方法で税金を負担してもらうだけでは、「完全な公平」にはなりません。</p> <p>日本では様々な課税方法の税金を組み合わせることで、税負担の公平性を確保しようとしているんですね。</p> <p>(「NEXT」 をクリック)</p>
	公平の考え方	内容												
応能負担	各自の能力に応じて負担すること													
応益負担	自分が受けた利益に応じたものを負担すること													
水平的公平	「負担能力が同じ人には、同じ負担を求めるのが公平」という考え方													
垂直的公平	「負担能力が高い人には、より大きな負担を求めるのが公平」という考え方													
世代間の公平	「現役世代と将来世代の受益と負担のバランスを保つ」という考え方													

<p>6</p> <p>15</p>	<p style="text-align: center;"><b>税金の使い道の決め方</b></p> <p style="text-align: center;">国の税金に関する法律（税負担の方法）と税金の使い道（予算）は、国民の代表者である国会議員が決めています。</p>  <p style="text-align: center;">←BACK   HOME   NEXT→</p>	<p>講師：</p> <p>今グループで行ってもらった討議は、授業で習った日本の制度に似ていませんか？</p> <p>税金の集め方を話し合う会議とは、つまり国会などの「議会」です。議会では、選挙で選ばれた代表者である「議員」が話し合いを行って、税金の使い道、つまり予算などを決定しています。</p> <p>この流れは、国であっても都道府県や市区町村であっても同じです。</p> <p>（「NEXT」 をクリック）</p>
--------------------	--	--

7	<h2 style="text-align: center;">国の財政（所要時間：10分）</h2>																																																										
16	<div style="text-align: center;"> <h3>国の予算を見てみよう</h3> <p>1年間に得た国の収入を「歳入」、支出を「歳出」といい、国や地方公共団体が行う経済活動を「財政」といいます。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <h4>国の予算(令和7年度当初予算)</h4> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><b>歳入</b></p> <table border="1"> <caption>歳入の内訳</caption> <thead> <tr><th>項目</th><th>割合</th><th>金額 (兆円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>公債金</td><td>24.9%</td><td>28.6</td></tr> <tr><td>所得税</td><td>16.7%</td><td>19.2</td></tr> <tr><td>一般会計歳入総額</td><td>16.7%</td><td>19.2</td></tr> <tr><td>法人税</td><td>19.2%</td><td>22.7</td></tr> <tr><td>消費税</td><td>21.6%</td><td>24.9</td></tr> <tr><td>その他</td><td>5.8%</td><td>6.7</td></tr> <tr><td>平均税率</td><td>21.0%</td><td>11.0</td></tr> <tr><td>その他収入</td><td>10.7%</td><td>12.4</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>歳出</b></p> <table border="1"> <caption>歳出の内訳</caption> <thead> <tr><th>項目</th><th>割合</th><th>金額 (兆円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>国債費</td><td>19.7%</td><td>22.7</td></tr> <tr><td>社会保障</td><td>33.2%</td><td>38.2</td></tr> <tr><td>一般会計歳出総額</td><td>115.2%</td><td>133.2</td></tr> <tr><td>地方交付税交付金等</td><td>11.8%</td><td>13.6</td></tr> <tr><td>国債</td><td>8.2%</td><td>9.4</td></tr> <tr><td>教育及び社会福祉</td><td>5.0%</td><td>5.7</td></tr> <tr><td>その他</td><td>6.4%</td><td>7.4</td></tr> <tr><td>国債の償還の返済と利息</td><td>25.5%</td><td>29.2</td></tr> <tr><td>国債</td><td>9.4%</td><td>10.8</td></tr> </tbody> </table> </div> </div> <p style="font-size: small;">出典：財務省「これからの日本のために財政を考える」（令和7年4月）</p> <p style="font-size: small; color: blue;">過去の財政と見比べて、どのような変化があるか考えてみよう！</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px; margin-top: 10px;"> <span>←BACK</span> <span>HOME</span> <span>NEXT→</span> </div> </div>	項目	割合	金額 (兆円)	公債金	24.9%	28.6	所得税	16.7%	19.2	一般会計歳入総額	16.7%	19.2	法人税	19.2%	22.7	消費税	21.6%	24.9	その他	5.8%	6.7	平均税率	21.0%	11.0	その他収入	10.7%	12.4	項目	割合	金額 (兆円)	国債費	19.7%	22.7	社会保障	33.2%	38.2	一般会計歳出総額	115.2%	133.2	地方交付税交付金等	11.8%	13.6	国債	8.2%	9.4	教育及び社会福祉	5.0%	5.7	その他	6.4%	7.4	国債の償還の返済と利息	25.5%	29.2	国債	9.4%	10.8	<p>講師：</p> <p>先ほど話に出た「予算」のうち、国の予算を見てみましょう。</p> <p>国の収入、つまり歳入はほとんどが税金ですが、消費税・所得税・法人税が主な柱となっています。</p> <p>しかし、国の借金、つまり公債金収入も大きな割合を占めていることがわかりますね。</p> <p>国の支出、つまり歳出を見ると、もっとも多いのは社会保障関係費です。次に多いのが過去の借金返済、つまり国債費です。</p> <p>ほかにも、教育・防衛・地方交付税などにも歳出が割り当てられています。</p> <p>日本の財政は、昔から国債費や社会保障関係費が多かったのでしょうか。</p> <p>過去の財政状況も見てみましょう。</p> <p>（「過去の財政と見比べて、どのような変化があるか考えてみよう！」をクリック）</p>
項目	割合	金額 (兆円)																																																									
公債金	24.9%	28.6																																																									
所得税	16.7%	19.2																																																									
一般会計歳入総額	16.7%	19.2																																																									
法人税	19.2%	22.7																																																									
消費税	21.6%	24.9																																																									
その他	5.8%	6.7																																																									
平均税率	21.0%	11.0																																																									
その他収入	10.7%	12.4																																																									
項目	割合	金額 (兆円)																																																									
国債費	19.7%	22.7																																																									
社会保障	33.2%	38.2																																																									
一般会計歳出総額	115.2%	133.2																																																									
地方交付税交付金等	11.8%	13.6																																																									
国債	8.2%	9.4																																																									
教育及び社会福祉	5.0%	5.7																																																									
その他	6.4%	7.4																																																									
国債の償還の返済と利息	25.5%	29.2																																																									
国債	9.4%	10.8																																																									

17



講師：

昔の予算と見比べて、日本の財政が変化した要因について考えていきましょう。

歳出の中で、1990年と2025年を比べると、大きく変化している項目がありますよね。

…そう、歳出の緑色の部分「社会保障関係費」と赤色の部分の「国債費」が大きく伸びていますね。

その支出を補うため借金である「公債金」も約5倍と大幅に増加しています。なぜこのように財政が変化したのでしょうか。

(「国の財政が変化した原因は何か、考えてみよう!」 をクリック)

**国の財政が変化した原因は何か考えてみよう**

1990年度（平成2年度）と現在の歳出を比較すると、社会保障関係費や国債費が大きく伸びています。特に社会保障は、年金、医療、介護、こども・子育てなどの分野に分けられ、国の一般会計歳出の約1/3を占める最大の支出項目となっています。また、歳出の増加に対し歳入は、経済成長の停滞などが影響して税収の伸びが見合っていないため、不足分を借金に頼っているため、公債金は約5倍と大幅に増加しています。

**社会保障費は今後も増えるのかな？**

**日本の高齢化率**

(%) (高齢化率=総人口に占める65歳以上人口の割合)

年	日本	ドイツ	フランス	英国	米国
1990	12.5	15.0	14.0	13.0	12.0
1995	14.0	16.0	15.0	14.0	13.0
2000	16.0	17.0	16.0	15.0	14.0
2005	18.0	18.0	17.0	16.0	15.0
2010	20.0	19.0	18.0	17.0	16.0
2015	22.0	20.0	19.0	18.0	17.0
2020	24.0	21.0	20.0	19.0	18.0
2025	26.0	22.0	21.0	20.0	19.0
2030	28.0	23.0	22.0	21.0	20.0
2035	29.0	24.0	23.0	22.0	21.0
2040	30.0	25.0	24.0	23.0	22.0
2045	31.0	26.0	25.0	24.0	23.0
2050	32.0	27.0	26.0	25.0	24.0

(2025年) 29.6

（出所）日本：総務省「人口推計」、  
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」（出生中位・死亡中位仮定）  
 諸外国：国連「World Population Prospects 2024」

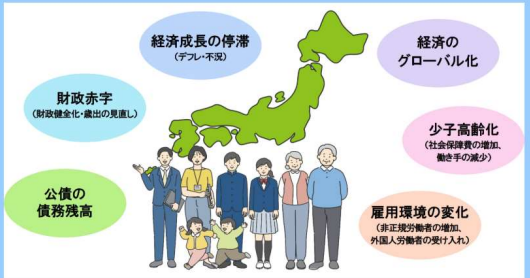

18

講師：

財政が変化した原因の1つは、「歳入の不足」です。経済成長の停滞などの影響で、税収はあまり増えていません。その結果、足りない分は「借金（公債金）」で補っています。この公債金は約5倍にまで増加し、国の財政を圧迫しています。

ほかにも、歳出面で考えると「日本の急速な少子高齢化」も原因と考えられます。国の歳出の中で最も多いのが「社会保障関係費」ですが、その内容は、年金・医療・介護・子育て支援などです。高齢化が進むと、年金や医療、介護費が増加することになります。画面のグラフは今後の高齢化率を予想したのですが、高齢化が進むことで、これからさらに社会保障費が増えていくと予想されます。

（「NEXT」 をクリック）

<p>8</p> <p>まとめ (所要時間: 3分)</p>	<p style="text-align: center;"><b>日本の将来を考えてみよう</b></p> <p style="text-align: center;">税金を考えることは、日本の将来の姿を考えることにも通じます。 様々な課題がある中、税金のあり方や国民の負担と受益(福祉・公共サービス)がどうあるべきか、 私たち一人ひとりが考えることが大切です。</p>  <p style="text-align: center;">←BACK   HOME   NEXT→</p>	<p>講師：</p> <p>みなさんには日本の財政状況を見てもらいましたが、今の日本は、「高齢化による社会保障費の増加」や「国債費の蓄積」など、様々な問題を抱えています。</p> <p>みなさんは18歳になれば選挙権を得ますが、一人一人が国の政治に関心を持って、それぞれの代表者の考えを理解したうえで投票することが大切です。</p> <p>まずは、税金の使い道や集め方から、自分の考えに近い代表者は誰か、考えてみてはどうでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(「NEXT」 をクリック)</p>
<p>19</p>	<p style="text-align: center;"><b>税の学習コーナー</b></p> <p style="text-align: center;">税金についてもっと詳しく知りたい人は、国税庁ホームページの「<a href="#">税の学習コーナー</a>」を見てみよう！</p>  <p style="text-align: center;">←BACK   HOME</p>	<p>講師：</p> <p>最後に、国税庁ホームページの「税の学習コーナー」を紹介します。</p> <p>税金についてわかりやすく紹介した動画や街づくりゲームなど、様々なコンテンツを掲載していますので、興味がある方はのぞいてみてくださいね。</p> <p style="text-align: center;">(租税教室アンケートがある場合は、回答を促す)</p> <p>講師：</p> <p>それでは、今日の授業はこれで終わりになります。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>20</p>		